

母を憶う

網谷一才

情愛纏綿たり母性の真

一生の労苦に其身を捧ぐ

酬可し存命平常の裡

深厚の慈恩仏神に勝る

【作者】網谷一才（一八九二～一九六五年）（明治二十五年～昭和四十年）神戸市出身、大阪日刊豆新聞主筆、生涯を青年指導と婦人生活の合理化運動に捧げ  
作詞・琵琶歌詞を始め作歌報国に邁進活躍した。昭和四十年（七十三才）没者

【通釈】 母の真の愛情は生まれたその子に一生の労苦を身を持って捧げることにあります。それを思えば日頃母の元気なうちに孝養をつくしたいものです  
親孝行は神や仏への信仰よりも大切なものです。と詠っています